

## 平成26年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成27年3月  
富山市（富山県）

○計画期間：平成24年4月～平成29年3月（5年）

### I. 中心市街地全体に係る評価

#### 1. 平成26年度終了時点（平成27年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市では、中心市街地活性化に向けて第2期中心市街地活性化基本計画に掲げる基本方針に基づき、「公共交通や自転車・徒歩の利便性の向上」、「富山らしさの発信と人の交流による賑わいの創出」、「質の高いライフスタイルの実現」に関する3つの数値目標を達成するため、各種事業を推進・展開しているところである。

平成26年度は、西町南地区において「西町南地区第一種市街地再開発事業」、「西町南地区複合施設整備事業（ガラス美術館、図書館本館、業務施設等）」を来年度の事業完了に向けて推進しており、総曲輪地区では「総曲輪西地区第一種市街地再開発事業」の施設建設工事の着手や、「総曲輪三丁目地区第一種市街地再開発事業」において再開発組合が設立されるなど、各種事業が着実に進捗している。また、富山駅周辺地区では平成27年3月に開業した北陸新幹線に併せて、路面電車市内線が新幹線高架下への乗り入れを開始しており、新幹線及び在来線との乗換利便性を大幅に向上することができた。

その結果、第2期基本計画で目標とする3つの数値全てが平成26年では増加となるなど、着実に成果が現れ始めたと感じる一方、未だ一部の数値が目標数値と比べ下回っていることから、引続き効果的な事業の取り組みが必要であると考えており、これまでも取り組んできている「まちなか活性化事業サポート補助金」の活用や、大学連携事業として実施する「学生まちづくりコンペティション」への参加、「富山まちなか研究室 MAG.net」を拠点とした学生の街なかでの活動など、事業に参画した市民一人一人が中心市街地活性化を担う「市民が主役」となる体制や仕組みづくりを今後も実施していく予定である。

#### 2. 平成26年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

地元事業者やNPO法人、その他民間業者等により開催された基本計画に位置づける事業に関するイベント（チンドンコンクール、エコリンク、市内電車環状線沿線の夜間ライトアップなど）のみならず、街なかに新たな賑わいを創出すべく、商工会議所が主導でイベント（越中・とやま弁大会など）が開催されるなど、着実に中心市街地活性化の機運が高まっており、その成果として「路面電車市内線一日平均乗車人数」、「中心市街地の居住人口の社会増減」については目標数値に向い順調に推移しているが、未だ「中心商業地区の歩行者通行量」は目標値を大きく下回っている。

協議会としては、様々な取り組みにより歩行者通行量の減少に歯止めがかかっていると認識しているが、上記の結果となっているのは、調査地点が現在の中心市街地の実情を反映していないからと考えている。

そのため、基本計画により新たな集客力を得た地点の歩行者通行量情報を算出し加味することで、より現状を把握することに努められたい。

協議会としても、中心市街地活性化に向けた意見交換や、より良いまちづくりを目指して他市における先行事例を題材に講習会を開くなど、例年よりも富山市との間で開催する定例会の回数を増やし、計画の進捗状況の把握に努めてきたところである。今後、数値目標の達成に向け更なる助言・提案等を十分に行ってまいり所存である。

来年度は第2期基本計画の4年目となり、5年計画の終盤に差し掛かることから、全ての数値目標を達成するためにも、行政と民間がより密接に連携・協力するだけでなく、地元商業者等が自主的に賑わいを創出することを目指し、「市民が主役」となる中心市街地活性化に向けて、市民や観光客が必要としているニーズを的確に読み取り、今後の取り組みを強化することが必要と考える。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
公共交通や自転車・徒歩の利便性の向上	路面電車市内線一日平均乗車人数	11,022 人/日 (H22)	13,000 人/日 (H28)	12,179 人/日 (H26)	①	①
富山らしさの発信と人の交流による賑わいの創出	中心商業地区の歩行者通行量(日曜日)	27,407 人 (H23)	32,000 人 (H28)	21,885 人 (H26)	①	①
質の高いライフスタイルの実現	中心市街地の居住人口の社会増加	332 人 増 ( H17/10 ~ H22/9)	390 人 増 (H23/10~ H28/9)	404 人 増 (H23/7~ H26/6)	①	①

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

平成 26 年度の路面電車市内線一日平均乗車人数は 12,179 人であり、前年との比較では 5.5%の増加、基準年値との比較においては 10.5%の増加となっている。

増加となった要因としては、「市内電車西町付近新停留場設置事業」が平成 25 年 5 月に完了したことにより、利便性が向上し、利用者数の底上げにつながったことや、実施中である「おでかけ定期券事業」の利用が浸透したこと、第1期計画で整備した路面電車環状線の乗車と組み合わせたイベントが民間主体で行われるようになってきていることなどが考えられる。

その他、目標達成に寄与する主要事業として、富山駅において平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業に併せた、路面電車市内線の新幹線高架下への乗り入れが始まり、新たな賑わい拠点の整備である「西町南地区第一種市街地再開発事業(ガラス美術館、図書館本館、業務施設等)」を始めとした、目標達成に寄与する主要事業が完了に向けて進捗していることから、さらなる乗車人員の増加を想定しており、平成 28 年度の目標達成は可能であると見込んでいる。

平成26年の中心商業地区の歩行者通行量は 21,885 人となり、基準値を下回る結果となった。

歩行者通行量は、状況把握を平均化するため年 4 回(3 月、5 月、8 月、11 月)調査の平均値を用いているが、平成 24 年 3 月調査では 33,247 人となるなど、調査時期によっては目標値を上回る結果も出ており、第1期計画で整備を行った賑わい拠点である「グランドプラザ」や「総曲輪フェリオ」等が着実に賑わいを創出し続けていると考えられる。

このような状況の中、今後、第2期計画に位置付けた「西町南地区第一種市街地再開発事業」や「総曲輪西地区第一種市街地再開発事業」等により新たな賑わい拠点が整備され、「グランドプラザ」等との間に回遊性が生まれることにより、さらなる賑わいが中心市街地全体に広がるものと考えられる。

現在のところ歩行者通行量は目標数値と比べ下回っているが、新たな賑わい拠点の創出と、平成27年3月の北陸新幹線開業による歩行者増を見込んでおり、これらに関連する事業は、順調に進捗していることから、引き続き取り組むことで目標達成は可能であると見込んでいる。

中心市街地の居住人口の社会増加については、第1期計画に位置づけていた「中央通りf地区第一種市街地再開発事業」による共同住宅の完成(平成24年4月)や第2期計画に位置づけている「西町東南地区第一種市街地再開発事業」による共同住宅の完成(平成24年10月)に加え、まちなか居住推進事業の効果等により、平成23年7月から平成26年6月で404人の増加となり、目標値である390人を超える結果となった。

今後も、計画区域内において民間による分譲マンションの新たな建設が予定されていることから、居住人口の更なる増加を見込んでいる。

### **3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由**

前回フォローアップの実施から変更はない。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「公共交通や自転車・徒歩の利便性の向上」 ※目標設定の考え方基本計画 P62～P66 参照

##### ●調査結果の推移



年	(単位)
H22	11,022 人 (基準年値)
H23	11,476 人
H24	11,564 人
H25	11,539 人
H26	12,179 人
H27	
H28	13,000 人 (目標値)

※調査方法；実測値による平均人数

※調査月；通年

※調査主体；富山地方鉄道株式会社

※調査対象；路面電車市内線

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①. 西町南地区第一種市街地再開発事業（西町南地区市街地再開発組合）

事業完了時期	【未】平成 27 年度
事業概要	旧大和百貨店跡地に公益施設(ガラス美術館、図書館本館、業務施設等)を複合的に整備し、市民が気軽に集い、憩える文化・情報交流拠点とする事業である。
事業効果又は進捗状況	西町南地区市街地再開発準備組合が平成 24 年 2 月に本組合に移行し、平成 24 年 12 月から既存建物の解体、平成 25 年 4 月から施設建築物工事に着手しており、当初の計画から1年の延長となる、平成 27 年 4 月の完成に向けて準備を進めている。

###### ②. 総曲輪西地区第一種市街地再開発事業（総曲輪西地区市街地再開発組合）

事業完了時期	【未】平成 28 年度
事業概要	市街地再開発により、商業施設、映画館、ホテル及び駐車場からなる複合施設を整備する事業である。
事業効果又は進捗状況	総曲輪西地区市街地再開発準備組合が平成 25 年 2 月に本組合に移行し、平成 26 年 8 月から既存建物の解体、平成 26 年 11 月から施設建築物工事に着手しており、当初の計画から2年の延長となる、平成 28 年 5 月の完成に向けて準備を進めている。

③. 富山駅路面電車南北接続事業（富山市/富山地方鉄道株）

事業完了時期	【未】平成 31 年度
事業概要	北陸新幹線開業に併せ新幹線高架下まで路面電車の軌道を整備する事業であり、将来的には富山ライトレールとの接続によりLRTネットワークの形成を図るものである。
事業効果又は進捗状況	北陸新幹線開業に併せ市内電車が新幹線高架下に乗入れを開始し、新幹線及び在来線との乗換利便性が大幅に向上した。引き続き、当初計画から1年延長となる平成 31 年度に向けて富山ライトレールの在来線高架下乗入れを推進する。

④. 市内電車西町付近新停留場設置事業（富山市/富山地方鉄道株）

事業完了時期	【済】平成 25 年度
事業概要	旧西武百貨店付近にて環状線新停留場を設置し、利便性の向上を図る事業である。
事業効果又は進捗状況	平成 25 年 5 月に事業が完了したことにより、中心市街地へアクセスしやすくなり、路面電車の利便性の向上につながっている。把握可能な利用者数である「IC カードにより運賃支払した降車人数」のデータで周辺停留場を含む4停留場の年間利用者数を調査したところ、新停留場開業前の平成 24 年度では 321,607 人だった利用者数が、開業後の平成 25 年度では 333,340 人、平成 26 年度では 345,288 人と年々増加しており、地区全体の利用者数の底上げに繋がっていると考えられる。

⑤. おでかけ定期券事業（富山市）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	市内在住の 65 歳以上の高齢者が、バス・鉄道・路面電車で「おでかけ定期券」を利用すると100円で中心市街地に来街することが出来る事業である。
事業効果又は進捗状況	平成 26 年度のおでかけ定期券利用による路面電車市内線の一日平均乗車人数は 440 人であり、目標達成に寄与している。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成 26 年度の路面電車市内線一日平均乗車人数は 12,179 人であり、前年との比較では 5.5%の増加、基準年値との比較においては 10.5%の増加となっている。

増加となった要因としては、「市内電車西町付近新停留場設置事業」が平成 25 年 5 月に完了したことにより、中心市街地へアクセスしやすくなり、路面電車の利便性が向上した結果、利用者数の底上げにつながったことや、実施中である「おでかけ定期券事業」の一日平均乗車人数が平成 23 年度の 288 人から平成 26 年度には 440 人と 52.7%増加するなど、利用が浸透してきたことなどが考えられる。

さらに、第1期計画で整備した路面電車環状線の乗車と組み合わせたイベント(映画とタイアップした

路面電車のラッピングと地元プロサッカーチームであるカタレ富山のパブリックビューイングをコラボ企画としたイベントや、フィンランドから招聘した公認サンタクロースがクリスマスラッピングを施した路面電車に乗り込み、子供たちと触れ合うイベントなどが引き続き民間主体で行われており、乗車人員の増に寄与していると考えられる。

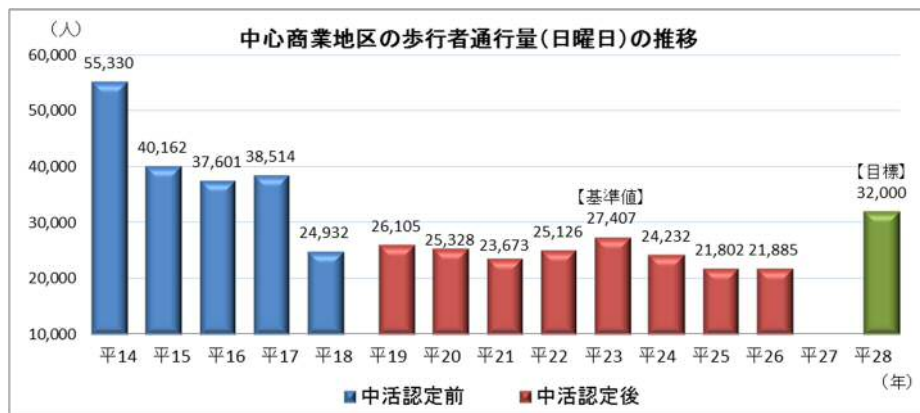
その他、目標達成に寄与する主要事業として、「富山駅路面電車南北接続事業」では平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業に併せて、市内電車が新幹線高架下に入り入れを開始しており、今後は、新たな賑わい拠点の整備である「西町南地区第一種市街地再開発事業(ガラス美術館、図書館本館、業務施設等)」や「総曲輪西地区第一種市街地再開発事業(商業施設、映画館、ホテル及び駐車場)」が完了に向けて進捗している。

これらの事業に引き続き取り組むことで、1,113 人の乗車人員の増加を想定しており、目標達成は可能であると見込んでいる。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「富山らしさの発信と人の交流による賑わいの創出」※目標設定の考え方基本計画 P67～P72 参照

##### ●調査結果の推移



年	(単位)
H23	27,407 人 (基準年値)
H24	24,232 人
H25	21,802 人
H26	21,885 人
H27	
H28	32,000 人 (目標値)

※調査方法；中心商業地区 8 地点、11 時間連続調査

※調査月；3、5、8、11 月の平均

※調査主体；富山市・富山商工会議所

※調査対象；歩行者・自転車

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 西町南地区第一種市街地再開発事業（西町南地区市街地再開発準備組合）

「【再掲】P5 参照」

- ②. 総曲輪西地区第一種市街地再開発事業（総曲輪西地区市街地再開発準備組合）

「【再掲】P5 参照」

##### ●目標達成の見通し及び今後の対策

平成26年の中心商業地区の歩行者通行量は 21,885 人となり、基準値を下回る結果となった。

歩行者通行量は、状況把握を平均化するため年 4 回(3 月、5 月、8 月、11 月)調査の平均値を用いているが、平成 24 年 3 月調査では 33,247 人となるなど、調査時期によっては目標値を上回る結果も出ており、第1期計画で整備を行った賑わい拠点である「グランドプラザ」や「総曲輪フェリオ」等が着実に賑わいを創出し続けていると考えられる。

このような状況の中、今後、第2期計画に位置付けた「西町南地区第一種市街地再開発事業(ガラス美術館、図書館本館、業務施設等の整備)」や「総曲輪西地区第一種市街地再開発事業(商業施設、映画館、ホテル及び駐車場からなる複合施設)」等により新たな賑わい拠点が整備され、「グランドプラザ」等との間に回遊性が生まれることにより、さらなる賑わいが中心市街地全体に広がるものと考えられる。

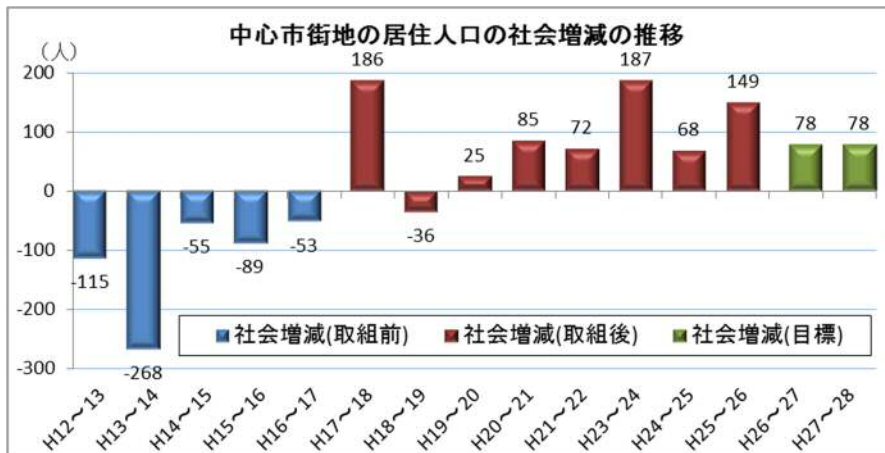
現在のところ、最新の数値である平成 26 年 11 月の歩行者通行量が 24,677 人となるなど、未だ目標数値と比べ下回ってはいるが、新たな賑わい拠点の創出と、平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業による歩行者増を合わせて 7,922 人の歩行者増を想定しており、これらに関連する事業が、順調に進捗していることから、引き続き取り組むことで目標達成は可能であると見込んでいる。



#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地の居住人口の社会増加」※目標設定の考え方基本計画 P73～P75 参照

##### ●調査結果の推移



年	(単位)
H17～22	332 人増 (基準年値)
H23～24	187 人増
H24～25	68 人増
H25～26	149 人増
H26～27	
H27～28	
H23～28	390 人増 (目標値)

※調査方法；住民基本台帳データに基づく

※調査月；毎年7月～翌年6月

※調査主体；富山市

※調査対象；中心市街地の居住者

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①. 西町東南地区第一種市街地再開発事業（西町東南地区市街地再開発組合）

事業完了時期	【済】平成 24 年度
事業概要	116 戸の共同住宅を計画する、まちなかの居住人口増加を図る事業である。
事業効果又は進捗状況	平成 24 年 10 月に共同住宅が完成し、事業が完了した。 なお、116 戸は共同住宅完成前に完売しているため、中心市街地の一世帯あたりの人員 2.17 人より積算し、251 人の中心市街地の居住人口の社会増加に寄与したと見込んでいる。

###### ②. まちなか居住推進事業（富山市）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	まちなかにおける住宅取得に対する支援や家賃に対する助成などを行い、まちなかの居住人口増加を図る事業である。
事業効果又は進捗状況	平成24年度以降の累計利用件数は、住宅取得補助 193 件、家賃助成 115 件であり、中心市街地の一世帯あたりの人員 2.17 人より積算し 668 人の中心市街地の居住人口の社会増加に寄与したと見込んでいる。

##### ●目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地の居住人口の社会増加については、第1期計画に位置づけていた「中央通り f 地区第一種市街地再開発事業」による共同住宅の完成(平成 24 年 4 月)や第2期計画に位置づけている「西町東南地区第一種市街地再開発事業」による共同住宅の完成(平成 24 年 10 月)に加え、まちなか居

住推進事業の効果等により、平成 23 年 7 月から平成 26 年 6 月で 404 人の増加となり、目標値である 390 人を超える結果となった。

今後も、計画区域内において民間による分譲マンションの新たな建設が予定されていることから、居住人口の更なる増加を見込んでいる。